

平成29年4月28日
橋本 和仁

1. 世界の大学ランキングについて

近年、世界の大学ランキングにおいて、我が国の大学の順位が低下している状況が報告されており、日本の大学の実態が変わっていないとの批判もよく耳にする。この議論を行うにあたっては、ランキングの主要な評価基準の一つに論文被引用数が含まれており、この結果、大学における改革への取組とそれがランキングへ反映されるまでに10年ほどの大きな時差が生じる可能性があることに留意する必要がある。

我が国の国立大学は平成16年に法人化された。当時、国立大学の組織マネジメントは法人化によってほとんど変化しなかったが、運営費交付金は毎年1%削減されることになり、研究に大きな支障を来した。このことが現在の論文被引用数、さらには最近のランキングに一定の影響を与えていると考えられる。

一方、第二次安倍政権の下、先駆的な取組を予算の重点配分等で後押しする国立大学改革が実施されてきた。これらの成果がランキングに現れるのはまだ数年先の話であり、引き続きランキングの低下傾向は続く可能性が高いと思われるが、この低下傾向を反転させるためにも、今がその正念場であると考ええる。

2. 国立大学改革の着実な実施に向けて

いくつかの国立大学においては、強力なトップマネジメントにより様々な先駆的な取組が開始されている。このような取組を着実に実施するためには、ある種のインセンティブが必要不可欠であるが、既存の運営費交付金の枠内でこのインセンティブに必要な財源を確保することは非常に困難である。

一定の組織改革が進んでいるドイツの大学学長会議会長やマックス・プランク協会会長に話を伺ったところ、ドイツの大学等においては、僅かではあるが追加的財政支援によってトップマネジメントがうまく機能しているとの話であった。このような状況を踏まえ、我が国においても、トップマネジメントに活用できる資金を追加的に措置することが必要と考える。

3. 大学等における本格的な拠点形成に向けて

我が国のような成熟した社会において、新しい事業を行うためにはスクラップ&ビルドが原則である。このことは科学技術政策にも当てはまる。WP1やSIPのような拠点形成プログラムは一定の成果を挙げているものの、プログラム終了後の体制維持が大きな問題となっている。この問題は、プログラム開始時点において、スクラップ&ビルドを前提にした計画が立てられていないことが原因であり、採択時にこの点を厳格に審査するとともに、適切なフォローアップを行うことが必要である。